

事務事業評価表（公共施設）

評価対象年度	平成 29 年度
1次評価日（主幹等）	30年3月31日
2次評価日（課長等）	30年3月31日

1 事業名	埋立施設管理事業			コード	81116	
2 担当部課	部等	市民環境部	課等	市民環境課	作成者	黒淵 浩人
3 事業概要	目的体系	基本目標	自然環境と暮らしが調和した、安全・安心なまち			
		政 策	循環型社会の構築	施 策	廃棄物対策の推進	
		予算科目	埋立施設管理費	業務委託	一部委託	
		実施義務	あり（義務的・標準的事业）	国県補助	なし	
		設置条例	岡谷市廃棄物処理及び清掃に関する条例			

●事業の内容（D0）

4 施設の概要・設置目的	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
施設の概要 (簡潔に)	樋沢最終処分場において、焼却灰及び不燃物の埋立処理を行う。また、埋立地より発生する浸出水について、国の基準に適合した適正で安全な処理を行う。		
目的	対象者	市民	
	意 図	快適で安全な生活環境を確保するため	

5 施設の管理運営状況			
指定管理者	なし	29年度指定管理料	円
施設における通常業務	<ul style="list-style-type: none"> 業者委託による浸出水の適正な処理等、埋立施設の管理を行った。 平成12年度から29年度末までの18年間の埋立量は54,500m³となった。 ※計画容量（61,100m³）の89.2% 		
事業の実施内容	<p>(29年度に施設で行った運営事業・自主事業など)</p> <ul style="list-style-type: none"> 埋立ごみの適正処理と施設の延命に努め、平成29年度は163トンの埋立処理を行った。 浸出水は放流時の排出基準をクリアできるように適正な処理を行い、放流水として公共下水道へ放流している。放流水のダイキシ測定値は、基準値10pgに対し、0.0026pgであった。 		
前年度の課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> 最終処分場の適正な管理を行うため、H30から管理業務や水質検査業務など埋立施設全体の管理を委託で実施するよう検討した。 		

6 施設の利用状況	*①は貸館施設のみ対象 *②・③はどちらかの欄に記入 *			
区 分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
① 施設稼働率	-	-	-	-
年間開設日数（日）	0	0	0	
1日の開設時間（時間）				
年間利用可能時間（時間）	0	0	0	0
年間利用実績（時間）	0			
② 年間利用者数（人）	0	0	0	0
有料利用者数				
無料利用者数				
減免措置者数				
③ 年間利用件数（件）	0	0	0	0
有料利用件数				
無料利用件数				
減免措置件数				
④ 1日あたり利用者数、件数	-	-	-	-
⑤ 施設利用状況の説明				

7 コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
① 直接事業費	18,287,203	23,450,210	14,835,525	27,789,000
経常経費	16,666,723	16,666,723	14,234,505	25,984,000
臨時的経費	1,620,480	6,783,487	601,020	1,805,000
* 臨時的経費の説明	* 埋立施設の修繕及び改修工事に係る経費、最終処分場整備工事			
区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
② 人件費	1,600,000	1,600,000	3,200,000	3,200,000
正規職員の人数(人)	0.20	0.20	0.40	0.40
③ 合計コスト(①+②)	19,887,203	25,050,210	18,035,525	30,989,000
前年度比		126.0%	72.0%	171.8%
財源内訳				
一般財源	13,052,923	17,193,680	16,782,025	29,184,000
特定財源	6,834,280	7,856,530	1,253,500	1,805,000
* 特定財源の説明	* 一般廃棄物処理手数料等、廃棄物処理施設整備事業債			
④ 施設使用料年間収入額	0	0	0	0
⑤ 年間減免措置額	0	0	0	0
⑥ 受益者負担割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
⑦ 活動一単位あたりコスト	-	-	-	-
前年度比		-	-	-
⑧ コストに関する補足説明				

●事業の評価 (CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性＝行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間（企業、NPO、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間（企業、NPO、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性＝施設の利用状況（項目6／住民の満足度）は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、事業の内容に反映している。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ 施設の利用者が増加した。 1日あたり利用者数、件数 前年度比	-	
⑤ 施設使用料収入が増加した。 施設使用料年間収入額 前年度比	1	

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(施設の有効活用、施設サービスの向上、利用状況の向上を図る上で、現在課題になっていること) ・最終処分場の適正な管理を行うため、H30から埋立業務や水質検査業務など埋立施設全体の管理を委託で実施していくこととなるが、管理マニュアルに基づいた管理・運営業務等が円滑に遂行されること。
改善方法	(上記の課題をふまえて30年度以降に実施する、具体的な改善の内容) ・委託事業者に対し、随時指導・助言を行う。
改善開始時期	平成30年4月

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による30年度の優先度 *H28年度施策評価表より転記すること	B
13 大規模修繕の予定			
予定事業費		円	予定時期
内容			